

もっと知りたい放射能 ⑬

『外部被ばく線量評価（その2）：県民健康管理調査・基本調査』

事故当初は測定器による個人の被ばく線量測定は不可能でしたから、「いつ」「どこに」「どのくらい居たか」「どのように移動したか」などの情報をもとに被ばく線量を推計するしかありません。県では全県民を対象に、各個人の行動をもとに被ばく線量の推計を行っています。ここではこの概要を紹介しします。

【方法・評価期間など】

「調査票」に各個人の毎日の行動を記録してもらい、各地の放射線量のデータをもとに被ばく線量を評価するもので、期間は放射線量の高かった事故直後から7月11日までの4カ月間です。現在の回答状況は200万人の県民に対して約48万人（23%程度）、発電所周辺の地域ではおおよそ50%です。評価結果は各個人に通知されています。

【結果の概要】

いわき市と県内7方部のうちの3方部の結果を〈表1〉に示します。いわき市では対象者約34万人のうち7万3千人（21%）から回答が寄せられ、平成25年3月末時点で約6万人の推計が済んでいます。この結果、

〈表1〉外部被ばく実効線量推計状況（全県調査）

H25.3.31現在

99%の方が1ミリシーベルト未満、最大は3.9ミリシーベルトでした。放射線量の高い相双地区では数ミリシーベルトを超える被ばくが認められています。なお、県南地区では約91%の方が、会津・南会津地区では約99%の方が1ミリシーベルト未満となっています。

被ばく線量 (mSv)	いわき		相 双		県 北		県 中	
1 未満	60,466	99.3%	54,214	77.8%	38,556	32.2%	59,863	59.5%
～ 2	436	0.7%	11,562	16.6%	69,710	58.2%	35,168	35.0%
～ 3	19	0.0%	1,795	2.6%	11,101	9.3%	5,332	5.3%
～ 4	3	0.0%	647	0.9%	388	0.3%	244	0.2%
～ 5	0	-	509	0.7%	35	0.0%	5	0.0%
5 以上	0	-	963	1.4%	25	0.0%	2	0.0%
計	60,924		69,690		119,815		100,614	
最高値	3.9mSv		25mSv		11mSv		5.9mSv	

出典：福島県HP・県民健康管理調査/基本調査から

【幼小中学校生徒の個人線量計での測定結果との比較】

生徒たちの測定結果は本年3月号の本欄で紹介しました。基本調査は事故後7月までの4カ月間、生徒たちの測定は平成23年11月からの測定から推計した1年間の被ばく線量です。時期が異なりますが、本年6月号で紹介したように、事故後4カ月間の被ばく線量とその後の1年間の被ばく線量はほぼ同程度と言えますので、生徒たちの測定結果から判断すると、約70%の方々が0.5ミリシーベルト以下であったものと推測できます。

「基本調査」は現在も行われています。ぜひ申し込み、自分の被ばく線量を確認してください。

〈お問い合わせ〉県立医科大学 放射線医学県民健康管理センター（☎024-549-5130）

【市放射線量低減アドバイザー 星蔦雄】

6月20日(木)の市役所本庁舎、各支所・市民サービスセンターでの放射線量測定値

庁舎・支所	平 (本庁)	小名浜	勿来	常磐	内郷	四倉	遠野	小川	好間	三和	田人	川前	久之浜 ・大久
地上1m	0.135	0.047	0.054	0.078	0.064	0.067	0.080	0.065	0.068	0.088	0.100	0.080	0.086
市民サービス センター	中央台	豊間	泉	測定時刻：10時				モニタリングポストは、マイクログレイ/時で測定されていますが、本表では1マイクログレイ/時=1マイクロシーベルト/時と換算して表示しています。					
地上1m	0.115	0.169	0.078	単 位：マイクロシーベルト/時				出 典：原子力規制委員会ホームページより					

※過去における測定値、平成21年度の市内の状況については、0.04～0.06マイクロシーベルト/時で推移していました。（福島県ホームページより）

水道水の放射性物質の測定結果

水道局では、市内全11浄水場の水道水を週4回（遠野地区の3浄水場は週1回）検査しています。現在の検査結果は、放射性ヨウ素・放射性セシウムとも、全て不検出（1ベクレル/kg未満）であり、安心して飲んでいただけます。

放射線に関する問い合わせ窓口 ☎0120-988-359 平日：8時30分～20時 土日祝：8時30分～18時